

愛知医科大学 学報



航空写真（昭和49年5月撮影）



航空写真（平成26年4月撮影）

いよいよ旧病院の解体工事が始まります
(関連記事20頁)

＝ 第137号 ＝

2015. 1月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

年頭ごあいさつ.....	2
平成27年度学年暦.....	11
平成27年度入学試験開始.....	12
CD病棟改修及びAB病棟等解体工事の実施...	20
教育・研究最前線「病理学講座」.....	32



—新年のごあいさつ—

理事長 三宅 養三

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

愛知医科大学の建学以来の最大の行事であるキャンパス再整備は、2006年から加藤延夫前理事長によって開始され、保育所、立体駐車場、7号館（医心館）が順次完成しました。途中2年間の中断を経て、最後の本丸である新病院は2011年7月に建設が開始され、昨年5月9日にめでたく開院を迎えることができました。未曾有の社会不況・変動の中、このような大事業が無事終了したのは、ひとえに職員の皆さまの献身的なご努力と予定通りの完璧な工事を施工して頂きました株式会社山下設計、鹿島建設株式会社、株式会社シーエナジーのおかげと厚く御礼申し上げます。

このように昨年は新病院が完成し、更なる発展に向けて新たなスタート地点に立つことができた記念すべき年となりました。開院当初は低調でした新病院の稼働も徐々に回復し、昨年8月以降は入院・外来とも前年を上回る状況となっておりますが、職員を増強した上に新病院建設に伴い100億円を超える最新鋭の医療機器を多々備えた病院としては、なお改善余地の残る稼働状況となっております。

さて、新病院完成で一息つきましたが、全国的に厳しい医科系大学の現状を考えますと一刻たりとも余韻に浸っている余裕はなく、次々に大学の発展に向けた戦略を打ち出し実行していかなければなりません。新病院により物流、動線は完備され働きやすい最適な医療環境ができました。更にシンククライアントを採用した電子カルテや倍増した手術室・ICU等により臨床の質・量ともに大きく発展する転換期を迎え、これに伴う地域医療への貢献や臨床教育・臨床研究の飛躍的な充実が期待されます。

大学が人材育成・イノベーションの拠点として、また、医科系大学では運営資金の70%以上を占める病院経営の効率を最大限発揮するためには、理事長、学長のリーダーシップの下で戦略的に大学を運営できるガバナンス体制をより強化することが重要であります。2014年8月に文部科学省は学校教育法の改正に対応する大学諸規程の

整備を指示してまいりました。そのポイントを要約しますと、その存亡すら危ぶまれる大学が多々存在する日本の危機的状況を鑑みて、大学において「権限と責任の不一致」が生じる状態を作ってはならないということがあります。分かり易く申しますと、大学の重要な舵取りは教授会の意見を聞くことは必要だが、その決定は最終責任を取る理事長（理事会）、学長に委ねられるべきであるということです。当たり前のように聞こえるかもしれませんが、日本の大学ではこの当たり前のことがなされていない場合があるための勧告であったと思います。

教授会の最大の任務は、教育と研究に対してであります。特定機能病院の承認を受けるのに臨床分野でのスタッフが筆頭著者の英文論文が年間70編以上必要であるとか、科学研究費助成事業の申請率や獲得率、大学院入学定員の充足率、大学院修業年限内学位取得率等の多くの評価ポイントで国からの補助金が大きく影響してくるといった事実を見るにつけ、教授会のなさねばならない仕事は山積みであります。

また、ECFMGは外国人が米国で臨床をする場合に必要な医師免許に当たるものですが、2023年からこの免許を取得するのに世界医療教育連盟（WFME）の基準での認証を受けた医学部の卒業生以外はその資格がないことになりました。そのため、日本の全ての医科系大学ではその準備を始めました。認証のない大学では、卒業生がECFMGを取得することができないばかりか、外国からの留学生も皆無となるでしょう。これは大変な作業ですが、日本流にモディファイした場合には、臨床教育の質を大幅に向上させる可能性もあります。

このように、新病院の完成と軌を一にして、教育・研究分野でも大きな変動が起こりつつあります。そこでこの時代の流れをむしろ利用して、2015年は愛知医科大学が教育・研究・臨床の三位一体で大きく発展する年としたいものです。

心新たにご協力とご理解をお願いし、新年のごあいさつとさせていただきます。



一年頭ごあいさつ

学長 佐藤 啓二

あけましておめでとうございます。今年も皆さまにとって明るい希望に満ちた年になりますようお願いしております。建学43年目を迎える本学が更なる発展を期するためには、まず我々に到来する諸問題を確認し、対処の心構えを構築しておくことが重要です。

2018年問題

1992年に205万人であった18歳人口は、2031年には104万人に減少するとされています。大学進学者数の減少が加速し、愛知医科大学においても合格者のレベルダウンに伴って、留年率や国家試験合格率の低下に基因する諸問題が噴出する可能性がありますので、優れた学生に多数入学してもらえらる大学として確固たる地位を築いておく必要があります。

2030年問題

2010年以降、総人口は減少していきませんが、逆に65歳以上の高齢者人口は増加し、2010年には生産年齢人口と高齢者人口比が2.8：1であったものが、2030年には1.8：1となり、2名で1名の高齢者を支える構造になります。医学部入学定員も2007年まで長らく7,625名であったものが、2014年には9,069名となり、数年後には9,200名を超えるところまで増加する見込みです。2014年の入学者が卒業後10年を経た2030年には、総人口が現在より1,000万人減少し、更に2043年以降になると高齢者人口も急激に減少する時代となりますので、患者数が激減することや、医学部入学定員と医師国家試験合格者が削減される可能性を考慮しておくことも必要です。

消費税問題

消費税の1%上昇によって、大学病院本院は約3.5億円の負担増が生じると言われています。2017年4月の消費税10%まで若干の猶予はありますが、新病院機能を更に活性化し、経営基盤を盤石にしておく必要があります。特に愛知医科大学は、新たな研究手法にマッチし、研究

がやりやすい環境（新研究学舎）を10年以内に構築することを念頭に置いて、研究支援体制や教育支援体制を考えていく必要があると思います。

専門医制問題

一般社団法人日本専門医機構が2014年5月より発足し、2017年から新専門医制度が始まることとなりました。しかし、混乱を招きかねない多くの事項が未解決です。新たに専門医資格を取得する人たちを指導する指導者資格をどう認定するのか、指導者数と専門医資格取得を目指す若手医師数とのバランスをどうとるのか、診療領域によって専門医資格を取得できる人数を制限するのか等です。現在、研修指定病院として認められている中にも、領域によっては、研修医を受入れできない病院が生じてくる可能性もあり、医学生数が激増している中、研修施設とのアンマッチが顕在化する可能性があります。

医学教育国際標準化問題

日本医学教育認証評価評議会（JACME）が発足しました。世界医学教育連盟の国際認証を担当する組織として活動する予定であります。このため、いずれの大学においても臨床実習時間を増加させ、見聞きする医学教育から参加する医学教育への転換を図っております。医学教育のアウトプットを明らかにしつつ、卒後臨床研修を含めた一貫教育を行い、優れた臨床医を育て上げることこそ、愛知医科大学が生き残る道であると考えています。

医療を取り巻く環境は、激変してきています。特定機能病院とはいえども、明らかに生き残りをかけた戦いの中にありますので、周囲の情報をしっかりとキャッチしながら、目標を定め、適切な戦略を練って対処していかねばなりません。

三宅養三理事長と力を合わせて、愛知医科大学の未来を作ってまいりますので、共に頑張りましょう。



－活力ある若手医療人育成 のための医学教育改革－

医学部長 岡田 尚志郎

明けましておめでとうございます。

21世紀のグローバル化と少子化という厳しい状況の中で、全国の大学は戦略的な教育改革と経営改革によって、学生の量と質の両面にわたる引き上げを図ろうと努力しています。全国的に大学改革の進むこの時期に、愛知医科大学は昨年5月の新病院開院によって、新しい時代を切り拓くための強力なエンジンを手に入れました。新病院の機能がフル稼働すれば、愛知医科大学病院の診療はもとより、教育や研究をも大きく発展させることのできる絶好のチャンスとなります。言い換えれば、本学の理念に沿った、次世代を担う医療人の育成に不可欠な環境が整ったこととなります。

さて、医学部は2015年を「医学教育の質・方策の改革実施」のための第4コーナーの年であると位置づけています。佐賀信介前学部長の時代から準備を進めてきました世界医学教育連盟(WFME)の提案する国際認証基準、すなわち「卒業時における一定の臨床能力の修得」に対応できる新カリキュラムを、2016年度から一気に走り出させるための最大の山場となる一年です。

今回の新カリキュラムの柱の一つは、クリニカルクラークシップの充実です。関係各位のご努力・ご支援によって約80名の新6年生が新たに九つの市中病院で、9週間(1クール3週間)にわたって臨床実習を受けることができるようになりました。各病院には本学の卒業生が在職しており、本院と同等の実習内容で学生の指導及び評価をお願いしています。学生には、第一線で働く医療人を素直な目で見、その厳しさを実感してほしいと願っています。

しかし、新カリキュラムの最大の焦点は、旧来の「基

礎科学」、「基礎医学」及び「臨床医学」の縦割りでインデペンデントな関係をできるだけなくし、6年間の医学教育を通じて本学が理想とする理念を「一本の道」として浮かび上がらせることができるか否かに絞られています。これを実現するためには、まず教員同士が共通の理念を持って議論し、たとえお互いの欠点を批判しあう場面があったとしても、冷静によりよい結論を導き出すよう理解し合うことが求められます。この過程を経てこそ、お互いの一体感、オール愛知医大という真の連帯も生まれてくるのではないのでしょうか。

私たち教員が大学の理念を共有し実践することによって、教員同志の距離が近づけば近づくほど、学生もまた私たちが伝えたいことを理解し、その結果、学生と教員との距離も近づくことに繋がるのではないかと期待します。

最後に、愛知医科大学が、現在進行中の教育改革によって、今後20年で次世代を担う医療人を育成できるように皆さまとともに頑張っていきたいと思います。

どうぞ宜しくお願い致します。



—新しい夢へ—

病院長代行 羽生田 正行

皆さま、明けましておめでとうございます。

新年初頭に当たりまして、病院長代行としてごあいさつをさせていただきます。

新病院の完成、移転と激動の年であった平成26年が終わり、更なる発展を期する年・平成27年が始まりました。私は、昨年10月より野浪敏明前病院長の後任として病院長代行を拝命し、これまで3か月間と短い期間ですが職務を行ってきました。この間、多くの方々にご支援を頂いたことを深く感謝申し上げます。

さて、新病院が開院した平成26年5月は引っ越し時の入院患者数の減少もあり、入院延べ患者数も伸び悩みましたが、9月、10月と次第に改善し、11月、12月には稼働率が100%を超える日も珍しくなくなりました。病院職員が、新病院で導入した様々なシステムにまだ慣れていない状況下でありながら、本当に頑張った成果であると思います。このように、順調に経過している新病院ですが、更に早急な対応を要する課題が残っています。

その一つは、現在まだフル稼働できていない部門・部署が残っていることです。国は、2035年までに今36万床ある7：1病床を18万床まで減らすことを政策とし、重症度・看護必要度などのハードルを上げており、今後7：1病床を有する病院が激減していくこととなります。こうした中で本院は医科大学病院として、重症系病床を多く有し、一般病床は全て7：1病床である高度急性期医療に特化した病院として生き残っていく道を選びました。平成27年度は、現在一部稼働していないEICU、GICU、手術室に看護師を補充・配置し、これらの病床をフル稼働させます。また、ME（臨床工学部）、リハビリ部門の増員も予定しています。このようにして、新しい病院の機能を最大限に引き出し、更に安全で高機能・高回転な病院にすることにより、厳しい病床再編成の荒

波をも乗り越えられる足腰の強い病院を目指したいと考えています。

もう一つ重点施策として挙げてきているのが、救急診療体制の充実です。これまで救急車で搬送されてきた患者さんは救命救急科が中心となって対応し、また夜間のWalk in患者さんはプライマリケアセンター（PCC）で対応してきました。しかし、最近の救急患者の増加に伴い、これまでのシステムでは対応しきれなくなってきています。そのため、平成27年度からは病院全体で救急医療を支えていけるように体制を変えて臨みたいと考えています。具体的には、各科当直を廃止し、代わりに救急対応当直医を置き、救命救急科医師とともに救急車に対応します。また、専修医がPCCを中心にローテートし、救急医療や一般外来を研修するとともに、救急体制を支える重要な要員として活躍して頂きます。このような変更により、これまで以上に救急車への対応が迅速になり、更に地域医療へ貢献できるのではないかと考えています。

新病院を建設するに当たり、コンセプト、設計、資金など多くの問題がありましたが、私たちはそのすべてを乗り越え、いまここに到達することができました。このような経験は、私たち病院スタッフに財産とも言うべき多くのノウハウを残してくれました。

これからも新病院で多くの重要な問題に直面することがあると思いますが、これだけの経験をしたスタッフを持つ愛知医科大学病院はきっと乗り越えられると思います。また、その中から新病院の次にある夢、私たちが望む真の病院のかたちは何なのかを明確にできるようになれば、私たちにはそれを必ず実現できる力があると私は信じています。平成27年はそんな新しい夢を見る1年にしたいと思います。



—平成27年の看護学部—

看護学部長 衣斐 達

平成27年の年頭に当たり、愛知医科大学関連の皆さまに新年のごあいさつを申し上げます。

平成26年5月に、最先端の医療施設が整った新病院が開院し、同年8月からは病院実績も次第に伸びてきていますので、希望に満ちた新年を迎えました。

看護学部では、本年1月17日と18日に大学入試センター試験利用入学試験、同月25日に一般入学試験が実施されますので、優秀な看護学生の入学を期待しています。一方、学部4年生は卒業式を迎えるにあたり、2月20日には保健師、同月22日に看護師の国家試験があり、全員合格を目指して、最終の追い込みの受験勉強に入っています。

愛知県の看護系大学は現在9大学ありますが、平成27年度には新たに2大学で看護学部の開設が予定されています。また、近隣の岐阜県、三重県においても、数大学において開設予定となっています。少子高齢化が進む中で、看護系大学においても、学生獲得競争が激化するとともに、教員の獲得も困難になりつつあり、本学部が、他大学との競争に生き残るためには、入学試験、学部教育、大学院教育、看護実践研究センター教育、研究、地域貢献において、より一層の工夫と努力が求められます。

本学部では、豊かな人間性を涵養し、看護の対象となる人々との信頼関係を築き、ヒューマンケアを提供できる看護専門職者を育成するとともに、専門職者として創造的・発展的に実践能力を身に付けることを教育理念としております。このため、入学試験では、優秀な学生の獲得に向けて、平成26年度から一般推薦入学試験で全員に基礎学力試験を課すことになりました。また、オープンキャンパスや模擬授業、高校への出張講義などの内容の検討を行ってきています。

学部教育では、看護師国家試験100%合格を目標とすることはもちろんですが、留年生対策とともに優秀な学生の学力を伸ばす教育が重要になり、アドバイザーを始め各教員のきめ細やかな教育指導や、ICT機器の導入・整備、FD活動などにより、質の高い教育を実施してきました。

看護基礎教育の法改正と社会変化に対応し、教養科目、専門基礎科目、看護専門科目群を体系的に配置し、看護実践能力をより高めるために改正された新カリキュラムが、平成27年度に完成年度となります。そして、保健師教育環境の変化に対応するために、保健師教育課程の選

択制を導入した中での卒業生を初めて送り出すことになります。

大学院教育では、高度な知識・技術と卓越した実践能力を持つ高度専門職業人を育成するために、修士論文(課題研究論文)コースに加え、感染看護学領域と急性・重症患者看護領域では専門看護師(CNS)コース、急性・重症患者看護領域で高度実践看護師コース(看護師特定能力認証)コース(クリティカルケア[周術期])を開講してきました。

そして、平成25年度に開講した高度実践看護師(看護師特定能力認証)コースでは、今年の3月に初めての修了生を、診療看護師(NP:ナースプラクティショナー)として臨床現場へ送り出すこととなります。チーム医療の一員として、患者さんの一番身近な存在としての看護師であるとともに、高度な専門的知識を活用した総合的判断を行い、チーム医療の推進と医療の質向上への貢献が期待されています。

また、看護学研究科では履修生が働きながら就学ができるように夜間や土曜日などに開講し、長期履修制度を導入しています。そして、現在の複雑化した保健医療福祉環境に対応し、修士課程修了者の学術的取り組みを更に発展させる研鑽の場として、質の高い教育研究者を養成するために、博士課程設置の準備を行っていきます。

看護実践研究センターは、認定看護師教育部門、卒後研修・研究部門、地域連携・支援部門の3部門からなり、感染管理及び救急看護分野での認定看護師の養成、看護実践の開発に関わる教育・研究支援事業、地域住民に対する生涯学習事業や健康増進のための支援事業を展開しており、公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)において高い評価を受けています。センター活動を含み、看護学部では地域貢献活動として長久手市、北名古屋市との連携を行っております。

これまで、学生教育に重点を置きがちになってきたため、研究活動が進みにくい傾向がありましたので、科学研究費助成事業などの競争的研究資金獲得に向けて、大学全体での支援を計画しております。

結びに、看護学部の学生・職員のみならず、医学部や病院関係者の皆さまの協力と支援によって、看護学部が成り立っておりますので、本年も引き続きご支援、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

侘美好昭名誉教授が、平成26年秋の叙勲において瑞宝小綬章を授与され、平成26年11月10日（月）国立劇場大劇場にて伝達式が行われ、皇居において、天皇陛下のお言葉と拝謁を賜りました。心からお祝い申し上げます。

侘美先生は、昭和34年3月名古屋大学医学部医学科を卒業し、西独、英国の医療機関で経験を積まれた後、名古屋市立大学助手、講師、集中治療部副部长を経て、昭和48年7月に愛知医科大学麻醉科学講座教授として赴任されました。平成12年に定年退職されるまでの間、本学の麻醉科学、集中治療医学、ペインクリニックの設立等、集中治療医学の確立に尽力されました。

また、地域社会に貢献できる救急医療への取り組みを先導し、救急救命センターの開設にも尽力され、本院の救急医療の礎を築かれました。

侘美先生から、「今回の叙勲、全くの想定外のことでしたので、大変驚きました。それでも、皆勤賞を頂いた



くらいの感じでしたのですが、麻醉科学講座で一緒に仕事をした本学卒業の皆さんが、“愛知医大もここまで来たか。”と大変喜んでくれました。これを聞いて、初めて受章の意味が解りました。現在、専門学校で講義をしておりますが、“自分が得たものを、どうしたら若い人たちに理解してもらえる形で伝えることができるか。”に一生懸命です。」と感想を頂きました。

役員・名誉教授・教授懇親会開催

平成26年12月15日（月）午後6時から名古屋東急ホテルにおいて、役員・名誉教授・教授懇親会が開催されました。お忙しい中ご出席頂いた63名の諸先生方は、久しぶりに顔を合わせられたこともあって話に花が咲き、とても和やかな懇親会となりました。

初めに三宅養三理事長からあいさつがあり、続いて、名誉教授を代表して祖父江逸郎名誉教授のあいさつの

後、山岸越夫理事の音頭で乾杯が行われ会が始まりました。懇親会では、平成26年秋の叙勲を授与された侘美好昭名誉教授のご紹介を始め、今年度新たに名誉教授の称号を授与された先生、新たに教授に就任された先生等から近況報告や抱負などのあいさつがありました。

最後に佐藤啓二学長からあいさつがあり、会は盛会裡に終了しました。

平成27年新年祝賀式

平成27年1月5日（月）午前11時から、大学本館たちばなホールにおいて新年祝賀式が行われました。

祝賀式では、佐藤学長から「昨年の5月には全職員の献身的な努力により無事新病院が開院しました。更に昨年12月10日には、病床稼働率が99.4%となり、これは他の私立医科大学と比較しても、称賛に値する高次元な病院機能が発揮されてきている証であります。これもひとえに全職員の工夫と努力とチームワークの賜物であります。今年も、大学・病院ともに更なる高みを目指して、オール愛知医大として成果を出していきたいと期しておりますので、全職員の更なるご協力をお願いしたい。」とあいさつがありました。

この後、会場を1階のレストランオレンジに移し、厚生会主催による新年賀詞交換会が行われました。



平成26年度永年勤続者表彰

平成26年11月21日（金）大学本館301講義室において、平成26年度永年勤続者表彰式が行われました。

三宅養三理事長から表彰状が授与されるとともに、「職員の皆さんにご努力頂いた結果が実り、新病院が開院となり、これから本学の最も輝かしい時代を迎えます。歴史もあり、住みよい街として高い評価を得ている長久手の地で、これからも頑張ってくださいと思います。」とあいさつがあり、被表彰者を代表して、看護部の坂井田法子師長から謝辞が述べられ、表彰式は終了しました。

永年勤続者表彰者は、次のとおりです。



謝辞を述べる坂井田師長

30年勤続者

猪狩 直樹	伊藤 雄二	稲垣 幸一	稲垣 夕美	鎌田 貴夫	神谷 考志	坂井田法子
清水 郁男	竹内 基恭	内藤和香子	早瀬 聡	姫野 俊子	星野 伸忠	森下 裕司
山内 雅人	山本 隆博					

20年勤続者

粟津 典子	大久保やす子	太田 裕美	押上 幸紀	加藤 真一	岸上美智代	久具 純子
楠 正隆	小島 良	坂本 学	柴 智香子	杉本 郁夫	鈴木 由美	塚本 由紀
星野 州泰	山口 英子	米本 貴行				

10年勤続者

秋田 洋一	安藤 景一	石川 郁	宇野絵美子	大塚ひろみ	大橋 知彦	貝瀬 梨絵
糟谷 千花	木村 優子	工藤 千洋	高阪 崇	菅井 良典	茅喜田恵子	竹島 雅子
中山 里美	沼波 宏樹	廣瀬 士朗	藤掛 彰史	前田 美咲	宮原 佳恵	山田奈保子
山森 孝彦	渡邊 大輔					

(83名：五十音順・敬称略) ※氏名掲載は希望者のみ

平成27年長久手市消防出初式

平成27年1月11日（日）長久手市立市が洞小学校において、長久手市消防出初式が行われ、本学自衛消防隊12名が参加しました。

長久手市では、出初式の会場を昨年より輪番制としており、今年は市内で最も南部に位置し、開校7年目の同校で開催されました。

式は、消防本部・消防団の他、各消防関係団体約200名が参加して分列行進から始まり、観閲・表彰が行われ、中学生による吹奏楽の演奏、消防署員による救急救助訓練の後、本学自衛消防隊は、消防署・消防団・女性消防クラブとともに一斉放水に参加し、集まった市民から盛んな拍手を受けました。

また会場では、女性消防クラブ・応急救護ボランティア・危険物安全協会による防火啓発コーナー、消防団によるスタンプラリー、防火服を試着しての記念撮影など



記念撮影

が行われ、見学者約600名が訪れて大変にぎわいました。

地域貢献、防災意識の普及高揚のため、これからも事業所自衛消防隊としての参加を予定していますので、ご協力の程お願いします。

愛知医科大学公開講座（長久手市連携事業）開催

平成26年11月29日（土）長久手市文化の家（光のホール）において、愛知医科大学公開講座（長久手市連携事業）が開催されました。

今年の公開講座は、「皮膚がん」をテーマに、「あなたのそのシミ、がんかもしれません」と題した講演を行い、約80名の市民の方々にご参加頂きました。

始めに、佐藤啓二学長から開講のあいさつがあった後、医学部皮膚科学講座の渡辺大輔教授から皮膚がんに関する基礎知識、診断・検査から治療方法までの流れ、皮膚がんを予防する方法など、実際の症例を踏まえながらの講演がありました。

受講者からは「とても分かりやすい内容だった。」「講演で身に付けた知識を家族や知人にも教えていきたい。」



講演する渡辺教授

などの感想を頂きました。

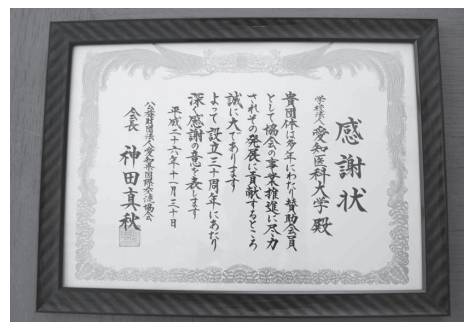
本学では、今後とも長久手市と連携して公開講座を企画していく予定です。

公益財団法人愛知県国際交流協会 感謝状の贈呈

平成26年11月30日付にて、公益財団法人愛知県国際交流協会会長から感謝状が贈呈されました。

この感謝状は、同協会の賛助会員として多年にわたり事業推進に尽力されたことに対して贈られたものです。

近年、世界のグローバル化が進み、国際交流の重要性がますます高まっていることから、本学では今後とも、国際的な医療の進歩・向上への協力を目指し、国際交流を推進していきます。



愛知警察署感謝状の贈呈

本学が日頃から警察業務へ積極的に協力するとともに、安心して安全なまちづくりに大きく貢献したことに対して、昨年に引き続き、本年1月23日付にて愛知警察署長から感謝状が贈呈されました。

この感謝状は、本学職員の大学付近の交差点での交通安全県民運動に係る街頭活動への積極的な参加や、本学医学部・看護学部の学生に対して、警察関係者による「交通安全講習会」を開催することで、交通事故防止のためのマナーの普及、交通安全の意識高揚に努めていること等に対して贈られたものです。

今後とも本学は医科大学として、医療・看護のみならず、



多方面において地域住民の皆さまとともに、安心して安全な生活が守られるよう今後一層貢献してまいります。

災害医療研究センターの設置

わが国では、南海トラフ巨大地震や首都直下型地震の発生が切迫しており、災害医療体制の充実強化が急務となっています。このような状況下において、災害拠点病院である本学には、災害医療への対応強化を図ることが社会的に求められています。

そのため、本学では災害医療分野を強化するため、大学の附属教育研究施設として、平成26年11月1日付で、災害医療研究センターを設置し、中川隆教授（前救命救急科・教授）が就任されました。

同センターでは、災害医療に関する教育（普及活動、研修、訓練の実施）や研究を行うとともに、南海トラフ巨大地震を始めとする大規模災害時の被害を軽減するため、本学・本院のみならず、近隣市町村や愛知県と連携をして、災害医療に関する啓発活動の推進や研修機会の提供などを推進することで、災害医療分野の発展に寄与することを目的としています。

中部先端医療開発円環コンソーシアム 「愛知医科大学病院 医療現場ニーズ発表会・施設見学会」開催

平成27年1月14日（水）本学において、「愛知医科大学病院医療現場ニーズ発表会・施設見学会」が開催されました。

本会は、名古屋大学を中心とした本学を含む12の機関で結成した「中部先端医療開発円環コンソーシアム」の活動の一環として、名古屋商工会議所及びメディカル・デバイス産業振興協議会の協力の下、ものづくり企業と医学・医療のマッチングを図り、医工連携につなげようとするものです。

当日は、第1部「医療現場ニーズ発表会」と第2部「施設見学会」の2部構成で行われましたが、全体で約60名の参加がありました。

第1部では、メディカル・デバイス産業振興協議会幹事長の筒井宣政氏と佐藤啓二学長のあいさつに続いて、羽生田正行病院長代行から本院の紹介があった後、渡辺秀人教授（分子医科学研究所）による「愛知医科大学における産学・医工連携の取組み」と題した講演がありました。その後、本院の現場ニーズや課題等について、各



新病院を紹介する羽生田病院長代行

部署から5名がプレゼンテーションを行いました。

また、第2部では、参加者を3グループに分け、ドクターヘリを始め高度救命救急センターや中央臨床検査部などの施設や設備を見学しました。

本学では、今後とも中部先端医療開発円環コンソーシアムとの連携を密にし、本活動の推進を図っていきます。

平成27年度学年暦のご紹介

平成27年度の医学部及び看護学部の主な学年暦を紹介いたします。

医 学 部	
4月1日	前学期開始
4月2日	白衣式
4月4日	入学式
4月6日・4月10日	新入生ガイダンス
4月7日～4月9日	1学年次合宿
4月10日・4月14日・4月15日	学生定期健康診断
5月15日	6学年次総合試験A
5月22日	3年次定期試験
5月26日～6月5日	4学年次定期試験
6月8日～6月10日	1学年次早期体験実習（看護体験）
7月10日～7月17日	4学年次定期試験
7月18日	6学年次Advanced OSCE
	夏季休業
8月31日～9月11日	1学年次定期試験 2学年次定期試験 4学年次学外体験実習
9月14日	後学期開始（1・2学年次）
9月15日・9月16日、 9月29日～10月1日	1学年次早期体験実習（臨床科）
9月28日～10月14日	3学年次定期試験
10月15日	総合防災訓練（1～4学年次） 後学期開始（3～6学年次）
10月16日	解剖慰霊祭
10月29日～10月30日	6学年次第1回総合試験B
10月31日～11月1日	医大祭
11月4日	3学年次定期試験
11月4日～11月13日	4学年次定期試験
11月9日～11月13日	1学年次早期体験実習（同窓会医師見学）
11月30日～12月1日	6学年次第2回総合試験B
12月2日・12月3日	3学年次定期試験
12月4日	4学年次共用試験C B T 冬季休業
1月4日	5学年次臨床実習試験
1月4日～1月13日	1学年次定期試験
1月5日～1月8日	3学年次定期試験
1月22日～2月5日	2学年次定期試験
2月6日	5学年次臨床実習試験
2月8日～2月19日	2学年次学外体験実習
2月9日・2月10日	3学年次定期試験
2月15日～2月19日	1学年次定期試験
2月22日～3月4日	2・3学年次クリクラ体験実習
2月27日	4学年次共用試験O S C E
3月5日	卒業証書・学位記授与式
	春季休業

看 護 学 部	
4月4日	入学式
4月6日・4月7日	新入生ガイダンス
4月6日	前学期授業開始（2・3・4学年次）
4月8日	新入生研修（1学年次）
4月9日	前学期授業開始（1学年次）
4月20日・4月30日	学生定期健康診断
7月13日～7月17日	2学年次定期試験
7月27日～7月31日	1・3学年次定期試験 夏季休業
9月16日	後学期授業開始（1～4学年次）
10月10日	キャンドルセレモニー（2学年次）
10月15日	総合防災訓練（1～3学年次）
10月31日～11月1日	医大祭
12月14日～12月18日	2学年次定期試験 冬季休業
2月1日～2月4日	1学年次定期試験
2月10日～2月12日	3学年次定期試験 春季休業
3月5日	卒業証書・学位記授与式

平成27年度入学試験開始

今年もいよいよ入試シーズンの幕開けとなりました。

本学においても医学部，看護学部，大学院の入試が行われています。いずれの試験においても，受験生の合格への意気込みが感じられました。

《医学部》

●推薦入学試験

<公募制>

- ①試験日 平成26年11月15日(土)
- ②志願者数 103名
- ③受験者数 100名
- ④合格者発表 平成26年11月20日(木)
- ⑤合格者数 25名

●一般入学試験

<第1次試験>

- ①試験日 平成27年1月20日(火)
- ②志願者数 2,209名
- ③受験者数 2,129名
- ④第2次試験受験資格者発表

平成27年1月26日(月)

- ⑤第2次試験受験資格者数 423名

<第2次試験>

- ①試験日 平成27年1月29日(木)・30日(金)
- ②合格者発表 平成27年2月5日(木)

●大学入試センター試験利用入学試験

<第1次試験>

- ①試験日 平成27年1月17日(土)・18日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表

平成27年2月5日(木)

<第2次試験>

- ①試験日 平成27年2月13日(金)
- ②合格者発表 平成27年2月19日(木)

●愛知県地域特別枠入学試験

<第1次試験>

- ①試験日 平成27年1月17日(土)・18日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表

平成27年3月5日(木)

<第2次試験>

- ①試験日 平成27年3月10日(火)
- ②合格者発表 平成27年3月12日(木)

《看護学部》

●推薦入学試験

<指定校制>

- ①試験日 平成26年11月8日(土)
- ②志願者数 17名
- ③受験者数 17名
- ④合格者発表 平成26年11月18日(火)
- ⑤合格者数 17名

<一般公募制>

- ①試験日 平成26年11月8日(土)
- ②志願者数 56名
- ③受験者数 56名
- ④合格者発表 平成26年11月18日(火)
- ⑤合格者数 15名

●社会人等特別選抜

- ①試験日 平成26年11月8日(土)
- ②志願者数 8名
- ③受験者数 8名
- ④合格者発表 平成26年11月18日(火)
- ⑤合格者数 1名

●一般入学試験

- ①試験日 平成27年1月25日(日)
- ②志願者数 550名
- ③受験者数 545名
- ④合格者発表 平成27年2月6日(金)

●大学入試センター試験利用入学試験 (前期A・前期B・後期)

- ①試験日 平成27年1月17日(土)・18日(日)
- ②合格者発表 前期A・前期B：
平成27年2月6日(金)
後期：平成27年3月6日(金)

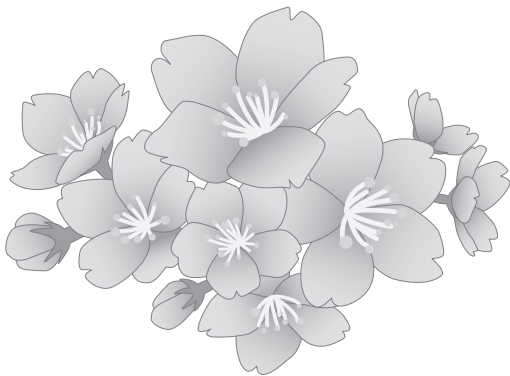
《大学院医学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
基礎医学系，臨床医学系各専攻合わせて21名
- 2 出願期間
平成27年1月5日(月) から
平成27年1月14日(水) まで【必着】
- 3 入学者選考方法
入学者は，学力試験及び出身大学の調査書を総合して選考する。
①試験日 平成27年2月6日(金)
②試験項目及び時間

時 間	試験項目
10：00 } 12：00	外国語(英語)[辞書使用可，電子辞書不可] ※ 外国人志願者の外国語試験は，英語一ヶ国語のみによる試験又は英語と日本語の二ヶ国語による試験のいずれかを選択する。
13：00 }	面接試験(志望する専攻分野に関連する専門試験を含む。)

- 4 合格者発表
平成27年2月20日(金) 午後1時
- 5 入学手続期間
平成27年3月2日(月) から
平成27年3月9日(月) まで
- 6 出願書類提出先
愛知医科大学医学部庶務課大学院係



《大学院看護学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
看護管理学，母子看護学(母性・小児)，災害看護学，慢性看護学，老年看護学，地域看護学，クリティカルケア看護学の各領域合わせて7名
※クリティカルケア看護学領域は，高度実践看護師コースのみ募集
- 2 出願期間
平成27年1月13日(火) から
平成27年1月26日(月) まで【消印有効】
- 3 入学者選考方法
入学者の選抜は，学力試験，小論文，面接及び出願書類等を総合して判定する。
①試験日 平成27年2月5日(木)
②試験科目及び時間等

◆一般選抜(修士論文・課題研究論文コース)

時 間	試験科目等
9：00～10：00	小論文
10：30～12：00	外国語(英語)
13：00～14：00	専門科目(専攻領域の科目)
14：10～	面接

◆一般選抜(高度実践看護師コース)

※クリティカルケア看護学領域のみ募集

時 間	試験科目等
9：00～10：00	小論文
10：30～11：30	外国語(英語)
13：00～14：30	専門科目(関連科目の病態治療学)
14：40～	面接

◆社会人特別選抜(修士論文・課題研究論文コース)

時 間	試験科目等
9：00～10：00	小論文
10：30～12：00	外国語(英語)
13：00～	面接

注) いずれの選抜も，外国語(英語)の試験は，辞書(電子辞書は除く。)の持ち込みを認める。

- 4 合格者発表
平成27年2月12日(木) 午前10時
- 5 入学手続期間
平成27年2月13日(金) から
平成27年2月19日(木) まで
- 6 出願書類提出先
愛知医科大学看護学部教学課大学院係

第41回医大祭に寄せて

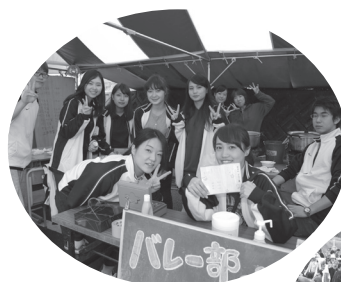
実行委員長 医学部4学年次生 吉川 馨介

今年で41回を迎えた医大祭は、平成26年11月1日(土)、2日(日)の2日間にわたり開催されました。

今年のテーマは「Do you enjoy?」でした。一人ひとりが医大祭の意義を考えながら、人間としての幅を広げ、成長し、協力し合い、結果として楽しんでほしいという思いが込められています。より良い医大祭にするために実行委員を中心に団結して準備した結果、今年は新しいイベントを企画・充実させ、今までとは変わった素晴らしい医大祭にすることができました。この医大祭を通じて、「Do you enjoy?」を少しでも意識して、医大祭をきっかけに人として成長して将来医師、看護師になる糧となれていればと思います。

私自身委員長として医大祭を終えた今、大きく成長することができました。それも周りの支えがあったからこそであり、実行委員を始めとする多くの仲間感謝しています。そして、この仲間達とともに協力しあって、一つのものを作り上げた経験は一生の宝物であり、医大祭によって生まれた多くの人との出会いや関わりをこれからも大切にしていきたいです。

医大祭の開催に当たり、多大なご協力を賜った関係各位に厚くお礼申し上げます。



学生による模擬店



大盛況なりサイクルマーケット



講演される松木安太郎氏

愛知医科大学不老会会員の集い開催

平成26年度の愛知医科大学不老会部会会員の集いが平成26年11月8日(土)午前10時30分から、大学本館たちばなホールにおいて開催されました。

当日は、不老会の役員及び各地域代表、本学部会会員並びに一般の方の96名の参加があり、本学からは、岡田尚志郎医学部長、解剖学講座の中野隆教授、そして関係教職員17名及び医学部学生25名が参加しました。

会員の集いは、成願された方々への黙とうで始まり、岡田医学部長及び不老会愛知医科大学部会の笠原英城部会長のあいさつがあり、来賓の北村直哉不老会理事長からごあいさつを頂きました。その後、不老会愛知医科大学部会役員の任期満了に伴う改選が行われ、全役員が再任されました。

最後に、学生体験を、医学部学生の代表として、3学年次生の李麗佳さんから「解剖学実習が始まり、実際に自分の目で見て、手で触れることで、言葉や図では捉えることのできなかつた、人体の立体的な構造を学ぶことができました。実習では、五感を全て働かせて、ご遺体と向き合うことで、解剖学の理解がより一層深まりました。私たちは三年生となり、医学のより専門的な内容を学んでいます。しかし、どの分野・疾患においても、正常な機能や構造を基にして考えるため、解剖学の講義や実習で学んだことがここに生きてくるのだ、ということを日々痛感しております。そして、一年たった今でも、解剖学実習の光景が鮮明に思い出されます。また、解剖

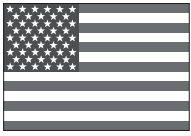


学実習では、人体の構造を学ぶだけでなく、ご献体してくださったご本人や、ご家族の方々へ思いを馳せることが多々ありました。様々な考えの下、医学の発展・進歩のために献体して頂くことは、大きな決断であったことと思います。医師を目指すため、たくさんの方々を支えられているということを改めて自覚するとともに、このような大変貴重な機会を頂いたことに深く感謝しております。」と感謝を込めた発表がありました。

会員の集いに引き続き、本学学際的痛みセンターの牛田享宏教授から「からだの痛みを考える」をテーマに記念講演が行われ、参加者に分かり易く講演されました。

その後、大学本館1階レストラン「オレンジ」において、参加者と医学部学生及び教職員との懇談会が和やかに行われ、参加者は、医学部学生、教職員が見送る中をそれぞれ帰途につきました。

国際交流



アメリカ南イリノイ大学医学部教員来学 (Southern Illinois University School of Medicine, SIU) ～更なる国際交流の発展と充実を目指して～

本学医学部では、平成17年3月からSIU（南イリノイ大学）との学術国際交流を行っており、SIUからの教員の招聘や相互に学生の派遣・受け入れを行っています。

例年本学からは、5学年次生を対象とした臨床実習に参加するコースと、3・4学年次生を対象としたSIU 2年生カリキュラムを受講するコースの二つのコースへ学生を派遣していますが、この学生の受入れに多大なご協力を頂いているSIUのEimi (Amy) Arai教授（薬理学講座）及びShelley Tischkau講師（同講座）が、平成26年11月18日（火）、19日（水）に来学され、本学の視察や学生・教員との交流を行いました。

今回の来学では、理事長、学長、医学部長への表敬訪問や、来学された先生方による南イリノイ大学医学部における教育カリキュラムやより効果的な学習を促す指導技術に関する講演が行われました。SIUでは、先駆的な教育カリキュラムの開発と充実した医学教育システムの整備を重点的に行っており、この講演では、これらに関する知識や理解を深めるよい機会となりました。

また、SIUへ派遣予定である医学部5学年次生に対するケースプレゼンテーションの指導だけでなく、同3・4学年次生に対しても、SIUで行われているPBL（問題立脚型学習）や医療英語の指導をして頂き、更に派遣学



記念撮影

（写真前列左：Eimi (Amy) Arai教授，前列右：Shelley Tischkau講師）

生との懇談会も行われました。学生にとっては、緊張の中にも積極的に先生方とコミュニケーションを図ることで、派遣に向けての新たな学習課題を形成できるよい機会となり、モチベーションの向上に繋がりました。

このように、例年のSIU教員の来学は、両大学の相互交流の更なる発展に大いに役立っています。

今後、医学部では更に多くの学生に海外留学へのチャンスを与え、また海外大学の学生の受入れを通して、学生が国際的な視野を広げる一助になるよう一層努力していきます。

外国人研究者等ゲストルーム新設 ～快適な生活環境の整備～

C棟（C病棟）6階に外国人研究者等用ゲストルーム（10室）が整備され、平成27年1月から利用が可能となりました。

このゲストルームは、主として医学部外国人研究者助成事業により招聘する外国人研究者や本学が学術国際交流協定を締結している大学（南イリノイ大学（アメリカ）、コンケン大学（タイ）、ルール大学（ドイツ））からの短期留学生が滞在期間に利用することとなっており、宿泊できる個室の他、滞者が調理や歓談ができるラウンジ、洗濯室も完備しており、研修期間を快適に過ごすことができる施設となっています。

これまででは、増加しつつある外国人研究者等が滞在できる施設もなく、十分な環境とは言えない状況でしたが、このゲストルームの完成によって、研修を生活面から支援する体制が整いました。

今後は、逐次来学する外国人研究者等が利用することとなりますが、本年1月初旬からは、ルール大学から来学したJosef Saegmuellerさん（医学部6年生）が本ゲストルームに滞在し、快適な生活を送りながら外科学講座（乳腺・内分泌外科）において、研修に精励しています。



ゲストルーム及び個室



共有スペース「ラウンジ」



医学情報センター（図書館）

英語論文執筆 & 投稿支援セミナー開催

医学情報センター（図書館）では、平成26年12月2日（火）と10日（水）の2日間にわたり、佐藤元彦教授（医学研究科委員会運営委員会委員長）のご支援の下、「英語論文執筆&投稿支援セミナー」を開催し、50名の参加者がありました。

第1回は、エダズグループジャパン株式会社よりエディターを講師としてお招きし、論文個別セッションと論文がアクセプトされるためにはどうすればよいのかについて講義をして頂きました。第2回は、BioMed Centralから講師をお招きし、オープンアクセスジャーナルの動向や論文の投稿先の講義をして頂くとともに、本センターからも具体的な選定先の調査方法について補足させて頂きました。

特に、第1回に行った個別セッションは、参加者アンケートで内容が非常に良かったと好評でした。約20分間



の英語によるマンツーマン相談で、参加者にとって明瞭な英文の書き方、主観的な意見の上手な加え方などの執筆する際の問題点を確認する良い機会となりました。

今後も、本センターでは、論文執筆から投稿までのサポートを定期的に行っていく予定です。

平成26年度医学部第3回FD（教員研修）実施

平成26年12月18日（木）医学部講義室において、医学部第3回FD（教員研修）を実施しました。

今回は、自治医科大学医学教育センターの岡崎仁昭教授を講師としてお招きし、特別講演「試験問題作成とブラッシュアップの仕方及び自治医大の学生教育」と題してご講演頂きました。

また、参加者全員が各自作成した試験問題を持ち寄り、6グループに分かれてその試験問題の検討とブラッシュアップを実施し、良問や改善を要する問題について、活発な議論が繰り広げられ、本学の試験問題作成の質向上に対し

医学教育センター長 福沢 嘉孝

て、非常に有意義な時間を共有できたものと考えています。

世界医学教育連盟（WFME）による国際認証という新しい医学教育の潮流の中で、「教員FD」の役割とその重要性は年々高まってきており、同時に本学における卒前医学教育への関心の高揚を感じております。

本FDにより、教員の医学教育に対する意識改革の進展に微力ながら貢献できればと考えております。また、今後のFDにおける研修プログラムのより一層の充実を図りたいと考えておりますので、ご支援、ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成26年度看護学部・看護学研究科FD（教員研修）開催

平成26年12月22日（月）看護学部講義室において、看護学部・看護学研究科における研究指導上の問題を明確にして、その解決法を求めるとともに、看護系教員及び大学院生のレベルアップを図るためのFDセミナーが開催されました。

今回は、筑波大学医学医療系（看護学類長・保健医療学域長）の川口孝泰教授を講師としてお招きし、「看護研究の落とし穴～研究計画書から論文発表まで」について、ご講演頂きました。

研究指導を進めるに当たっては、研究以前に考えること、研究の方法論について吟味すること、論文作成上で留意することなど、一つひとつを丁寧に取り組んでいくことでありますが、何よりも重要なのは文献を読むことだと強調されました。また、看護学研究の基盤として「哲学」や「科学」の知識が必要であり、教養を背景とした新しい「知」の追及をすることだと話されました。

研究課程においては、方法論ばかりに気を取られた業



講演される川口先生

績主義は禁忌であり、「知」の探求こそが最優先されるべきであるなど、研究指導者が陥りやすい傾向や対策についてもお話頂きました。

講演後の質疑応答では、研究指導に関する活発な意見交換がなされ、白熱した議論が展開されました。

看護学部FD委員会では、今後も教育・研究の質向上に積極的に取り組んでまいります。

＝ 地域連携 ＝

「元気の出る体操」DVD長久手版発表会開催

本学が長久手市から依頼を受けて制作を進めていた「元気の出る体操」DVD長久手版が完成し、平成26年11月1日（土）長久手市福祉の家において、長久手市主催による発表会が開催されました。

主催者による開会あいさつの後、牛田享宏運動療育センター長（学際的痛みセンター・教授）から『「元気の出る体操」とロコモティブシンドローム予防の話』と題した講演があり、続いて、今回制作したDVDの発表（視聴）がありました。

その後に行われた「元気の出る体操」の楽曲を作曲した名城病院の赤澤貴洋医師が率いる医療系バンド「ハートフルホスピタル」によるミニコンサートでは、会場全体が大いに盛り上がりました。最後に、運動療育センターの小笠原陽子トレーナーの指導により、参加者全員がDVDに合わせて「元気の出る体操」長久手版を実践し、



体操終了後の会場内には参加者の笑顔があふれていました。

なお、今回長久手市が制作したDVDは、「元気の出る体操」長久手版の普及等に協力して頂ける市民や各種団体へは無料配布されることになっています。

長久手市・株式会社長久手温泉との連携による「第3回よくばり健康づくり・長久手スタイル」開催

平成26年11月29日（土）に長久手市及び株式会社長久手温泉ござらっせと本学による提携事業として、健康増進イベント「第3回よくばり健康づくり・長久手スタイル～ロコモタ予防～」を開催し、健康に対する意識の高い長久手市民24名が参加されました。

参加者は、まず運動療育センター内の講義室において、牛田享宏運動療育センター長（学際的痛みセンター・教授）によるロコモタ防止・改善についての講義を受講しました。続いて、トレーニングフロアでのストレッチヨガ（講師：若林淑子トレーナー）と、温水プールでのアクアビクス（講師：長谷川共美トレーナー）の2グルー

プに分かれ、それぞれ実技指導を受けました。最後に、食事・栄養に関する山口節子管理栄養士の講義を受け、本センターでのプログラムを終えました。

その後、参加者は長久手温泉ござらっせに移動して、運動療育センターと長久手温泉が共同開発し、毎回大好評の「健康に良いランチ」を召し上がりました。

今回ご参加頂いた市民の方々からは、「痛みを感じる仕組みが興味深かった。」「実践できる運動と栄養管理が良く分かった。」などの感想がありました。

本学では、今後も長久手市と連携し、地域住民の方々の健康づくりに役立つイベントを開催していきます。



牛田センター長による講義



実技指導

工事現場からのお便り

CD病棟改修及びAB病棟等解体工事の実施

昭和49年（1974年）5月30日に愛知医科大学医学部の附属病院として開設許可を受けて以来40年間、中部地域の中核医療施設として信頼され愛され続けてきた旧病院ですが、昨年5月から新病院での診療開始に伴い、その使命を終えてしばしの休息に身を委ねていました。

しかし、名残は尽きませんが、ついにお別れ（解体）のときがやって来ました。

平成27年1月20日（火）に、AB病棟等解体工事を開始し、仮囲い設置に着手しました。また、解体工事に先立ち、昨年12月には、住民説明会を開催し、島田孝一法人本部長を中心として工事概要や搬出ルートとその安全性の確保、騒音を抑えることが出来る解体方法の採用など、詳細な工事内容を説明いたしました。

旧病院は、一部にアスベストを含有しており、解体には細心の注意が必要です。しかし、対策は万全ですので、ご安心ください。このアスベスト除去対策に関しては、法規制に準拠した確実な除去作業を行い、環境測定を随時実施することで空気中に汚染が無いことを常に監視してまいります。

また、騒音や振動に対しても万全の対策を講じます。鋼製の外部養生足場で建物周囲を囲い、防音パネル・防音シートを設置するとともに、解体時に発生する騒音を

低減する低騒音重機の使用や、油圧による圧碎機器を使用することにより、騒音・振動の発生を抑えることとしています。更に、躯体の圧碎時は常に散水を行うことで、粉塵等の飛散を抑制しながら解体工事を進めます。新病院での診療継続を前提とした工事計画により、患者さんのみならず、職員や学生の皆さんの安全にも十分配慮した計画としております。

新病院建設におきましては、近隣住民の方々や患者さんのご協力、そして職員の皆さまのバックアップがあって無事に工事を完了することができました。

AB病棟等解体工事は、平成28年3月末までの約14か月を予定しております。今一度、皆さまにご協力をお願いする次第であります。

引き続きご協力を頂きますよう、何卒宜しく願いいたします。



竣工当時の旧病院全景（昭和49年5月撮影）

私立医科大学病院

医療安全相互ラウンドを実施

私立医科大学病院協会は、各病院が他病院の見学・評価を行うことにより、安全対策を強化し、改善につなげることを目的として、平成18年から医療安全相互ラウンドの実施を指示しています。

今年度は、平成27年1月7日（水）午後1時30分から午後4時30分まで、川崎医科大学附属病院の医師、看護師、コ・メディカルの計9名が来院され、審査して頂きました。

本院の医療安全体制を「自己評価表」に基づいてプレゼンテーションを行った後、実際に「13B病棟、手術室、E I C U、腎センター、薬剤部、臨床工学部」などを見学され、次のような講評を受けました。

- 新病院として非常に立派な施設で、羨ましい印象を受けたこと。
- 職員研修については、施設を設けて実施されることが望ましいこと。
- 配薬の誤認防止システム、薬剤師の配置、自己管理薬のチェックリストなど参考にしたいこと。
- インシデント報告を医師のセーフティマネージャーが評価することは、参加型で羨ましいこと。
- 医療機器の集中管理に関して、整備されているが、医療機器安全管理委員会を設置されたいこと。
- I C Uでの透析に関して、ダイヤライザーと血漿交換する膜が同じ棚に置いてあり、誤認の危険性があるので是正されたいこと。

その他、見学部門への細やかなご指摘を受け、高安正和医療安全管理室長から、前向きに改善に向けて努力していきたいとあいさつがされました。



病院機能評価3rdG: Ver.1.1受審準備スタート

平成27年1月14日（水）大学本館たちばなホールにおいて、羽生田正行病院長代行から「病院機能評価3rdG: Ver.1.1」受審準備のキックオフ宣言があり、アルフレッサ株式会社コンサルティング部の宮崎芳明氏により受審概要についての講演会が開催されました。

本院において病院機能評価は平成17年10月に「Ver. 4」で認定を取得していますが、その後、平成22年10月に「Ver. 6」で更新し、平成27年度は再更新の年当たり、準備を開始することとなりました。

当日は、たちばなホールがほぼ満席となるほどの職員の参加があり、関心の高さがうかがえました。

準備を通して様々な職種が協力し、業務の改善や医療サービスの向上につながることが期待されます。



キックオフ宣言をする羽生田病院長代行

外科学講座(乳腺・内分泌外科) 今井常夫教授(特任) 日本甲状腺外科学会理事長就任

平成26年10月31(金)にアクロス福岡で開催された日本甲状腺外科学会総会において、外科学講座(乳腺・内分泌外科)の今井常夫教授(特任)が同学会の理事長に就任されました。



この度、日本甲状腺外科学会理事長を拝命致しましたので、ここにご報告申し上げます。

日本甲状腺外科学会は、昭和43年(1968年)に開催された甲状腺外科検討会に始まる伝統ある学会で、昨年10月の

学術集会は第47回を数えております。1998年に甲状腺外科研究会と名称が変更され、2006年から日本甲状腺外科学会となり、個人会員の学会運営に移行いたしました。学会となってから理事長制となり、わたしが4人目の理事長となります。任期は、2014年11月から2017年秋の学術集会終了日までです。

日本甲状腺外科学会の特徴は、甲状腺・副甲状腺の外科的治療を中心に領域を超えた診療科が集まる学術集団であるということです。一番多いのは甲状腺を専門とする外科医ですが、約3分の1の会員が耳鼻咽喉科を始めとする外科以外の診療科です。病理診断、放射線診断、放射線治療、核医学、内分泌内科の会員もいて、病理、放射線医学からは理事のメンバーにもなって頂いております。会員数は、2014年末現在で1,146名です。

甲状腺外科学会は、1977年の第1版以来「甲状腺癌取り扱い規約」を発行しており、今年中に第7版を発行する予定となっています。2011年には、日本内分泌外科学会

と共同で、甲状腺腫瘍診療ガイドラインを発行しました。私は、甲状腺癌のうち90%程度を占める甲状腺乳頭癌に対する治療指針の責任者としてガイドラインをまとめました。米国や欧州で既に発行されていた甲状腺乳頭癌のガイドラインと異なる、日本独自の治療指針を作成しました。その後、英文に翻訳され、それが海外で評価を受け、本年発行予定である米国の甲状腺癌ガイドラインの改訂に採用されました。

2011年の東日本大震災以後、東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質による影響調査のため、福島県民健康管理調査事業が継続して行われています。日本甲状腺外科学会としても、甲状腺外科の専門医集団として引き続き必要なサポートを行っていく所存です。

また、本院においても、愛知県内に避難している事故当時18才以下の福島県民を対象として甲状腺超音波検査を受託しております。これは、今後20年継続する事業で、本院で継続していけるよう努力致します。

本学の内分泌外科医として、日本甲状腺外科学会理事長の職務を果たす所存です。今後とも、愛知医科大学の皆さまのご支援をお願い申し上げます、理事長就任のあいさつとさせていただきます。

学会ホームページ：<http://square.umin.ac.jp/thyroidsurgery/>

小児科病棟クリスマス会 ☆病室にサンタクロースがやってきた☆

平成26年12月18日(木)午後1時30分から8A病棟ブレイクルームにおいて、小児科の医局及びボランティアさんの協力の下、クリスマス会が行われました。

当日は、ボランティアグループによる紙芝居やホスピタル・クラウンさんによるパフォーマンスなどイベントが盛りだくさんでした。

最後にサンタクロースから子供たち一人ひとりの名前が呼ばれプレゼントが手渡されました。プレゼントを手にした子供たちは、満面の笑みを浮かべ、またご家族の方々にとっても楽しい時間を過ごすことができたようです。



医学教育センター 福沢嘉孝教授 ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン(LMU) 客員教授に就任

平成26年7月29日付けで、医学教育センターの福沢嘉孝教授がドイツのルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン(LMU)の客員教授に就任されました。(任期:5年間)

今後は、客員教授として同大学医学部において、日本の消化器病学や肝臓病学の現況に関する講義をされる予定です。

同大学は、バイエルン州ミュンヘンに1472年に創立された州立大学で、18学部を擁する総合大学です。また、ヨーロッパ研究大学連盟(LERU)にも加盟しており、多くのノーベル賞受賞者を輩出していることでも有名です。

客員教授就任に当たり、福沢教授から「世界的にも医学部ランキングの非常に高いミュンヘン大学の客員教授に任命され、名誉なことと深謝します。これを契機に、ミュンヘン大学との国際交流も積極的に進めたいと考えております。本学発展のために微力ながら、貢献したい



ミュンヘン大学シンボルマークとメインホール

と考えておりますので、ご支援・ご協力の程、何卒宜しくお願いします。」とあいさつがありました。

看護学部 下村明子教授 The Second Asia Future Conference (第2回アジア未来会議) Best Paper Prize受賞

看護学部の下村明子教授(小児看護学)が、平成26年8月22日(金)～24日(日)インドネシアのバリにて開催された「The Second Asia Future Conference(第2回アジア未来会議)」において、「Best Paper Prize」を受賞しました。

これは、同会のポスター発表において、下村教授が論文投稿した「Needs of support considered from the free description of the sleep survey for normal children and disabled children」が学術的に高く評価されたものです。

なお、同会には日本のみならず、アジア諸国(中国、韓国、タイ、フィリピン、インドネシア、台湾)の研究者や博士課程の留学生が多く参加されています。

表彰を受けた下村教授から「平成23・24年度に採択された科学研究費助成事業の一部として、本会で発表させて頂きました。独特の育てにくさに加え、社会や周りの



表彰式での記念撮影(右から2番目)

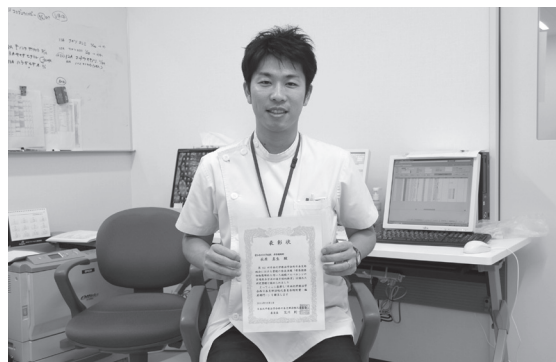
人の無理解の実態と、同時に正しい睡眠への知識不足に対して、睡眠改善プログラム構築の必要性が明らかとなり、今後の研究に結び付けていきたいと思っています。」と感想がありました。

薬剤部 萩原真生薬剤師 第62回日本化学療法学会西日本支部総会 活性化委員会特別賞(臨床部門) 受賞

薬剤部の萩原真生薬剤師（感染制御部兼務）が、平成26年10月23日（木）～25日（土）岡山県コンベンションセンターにて開催された「第62回日本化学療法学会西日本支部総会」において、「活性化委員会特別賞（臨床部門）」を受賞しました。

同賞は、学術集会の活性化を目的として、同会で発表された一般演題の中から優秀な論文が選考されるもので、萩原薬剤師が発表した「母集団薬物動態解析を用いた硫酸アルベカシンの至適投与方法の後方視的検索」が学術的に高く評価されたものです。

表彰を受けた萩原薬剤師から「このたびの第62回日本化学療法学会西日本支部総会におきまして、活性化委員会特別賞を受賞いたしましたことは、ひとえに三嶋廣繁教授、松浦克彦教授を始め、本研究に関わった皆さまの



ご指導ご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。今後も、実践・研究に日々精進していきますので、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。」と感想がありました。

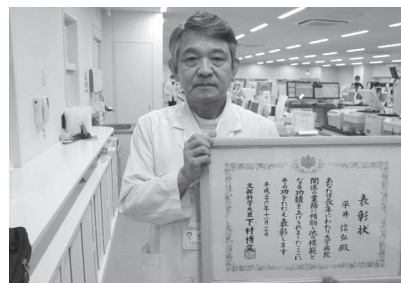
木村淳子看護部准看護師、平井信弘中央臨床検査部主任 医学教育等関係業務功労者表彰受賞

本院看護部の木村淳子准看護師と、中央臨床検査部の平井信弘主任が、平成26年11月20日（木）に文部科学大臣から、医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し、顕著な功労のあった方々に授与される、医学教育等関係業務功労者表彰を受賞されました。

表彰を受けられた木村准看護師から、「愛知医科大学に勤務して23年が過ぎました。このような名誉ある賞を頂き、大変光栄に思っております。これからも皆さまに対して感謝の気持ちを忘れず、頑張っていければと思っております。ありがとうございます。」、また、平井主任から、「永らく臨床検査業務に携わることができましたのも、諸先輩からのご指導並びに同僚からの協力があってのことと深く感謝いたします。この度はこのような名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。これも皆さま方からの期待と思い感謝いたします。これを励みにより一層精進して参ります。」とそれぞれ喜びの言葉を頂きました。



木村准看護師



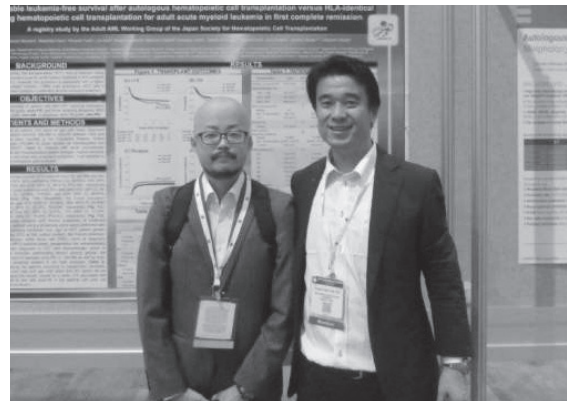
平井主任

血液内科 水谷元紀医員助教 第56回米国血液学会(American Society of Hematology: ASH)年次総会 Abstract Achievement Awards(優秀演題賞)受賞

本院血液内科の水谷元紀医員助教が、平成26年12月6日(土)～9日(火)米国サンフランシスコにて開催された「第56回米国血液学会(ASH)年次総会」において、「Abstract Achievement Awards(優秀演題賞)」を受賞しました。

同賞は、応募演題の中でも特に高い評価を得た若手研究者(第一著者かつ発表者)に贈られるもので、水谷医員助教が発表した「Comparable leukemia-free survival after autologous hematopoietic cell transplantation versus HLA-identical sibling hematopoietic cell transplantation for adult acute myeloid leukemia in first complete remission: A registry study by the Adult AML Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation」が優れた発表であると評価されたものです。

表彰を受けた水谷医員助教から「この度名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。大学関係者及び共同研究者



ポスター会場にて(水谷医員助教(左)と高見教授(右))

に深謝いたします。本学会は、米国臨床腫瘍学会と並び、世界最大の医学会の一つです。今後も、愛知医科大学及び医療・医学の発展に貢献できるよう、努力を重ねます。」と感想がありました。

学生クラブ HIAMU 平成26年度学生ボランティア団体支援先に採択

本学の学生クラブ「HIAMU」が、一般財団法人学生サポートセンター主催「平成26年度学生ボランティア団体支援」の活動団体として採択されました。

この支援は、自由な発想と行動力によって社会貢献を計画・実行している学生団体を対象に、組織の活性化やネットワーク作りなどを経済的に支援し社会貢献活動の応援を行うもので、本学として今回が初めての応募でした。

表彰式は平成27年1月27日(火)に京都で行われ、「HIAMU」の部長である医学部4学年次の加藤智大さんが出席し、懇親会では他大学の学生と活発な交流を行い、加藤さんから「今回の支援を契機に、今後も今まで



表彰式での記念撮影
(HIAMU部長 加藤さん：左から2番目)

の活動を継続させ、機会があれば学内外を問わず新しい活動をしてきたい。」と感想がありました。

HIAMU (Heart In Aichi Medical University)

主な活動内容：大学病院での小児ボランティア、学童での保健教育

ルール大学(ドイツ)を始めとする交換留学生との交流 など

チーム力を高める職場づくり研修を実施

法人本部では、組織力向上を目指した人材育成を重要課題とし、職員研修を実施しています。

今回、平成26年8月から11月の4か月にわたって、職場のリーダーを担う、管理者や監督者を対象に「チーム力を高める職場づくり」をテーマに研修を実施し、事務職員を始め、医療職員、看護職員32名が受講しました。

研修では、講義とグループワークをとおり、職場をマネジメントする基礎知識を学ぶとともに、メンバーの思いや感情、真意を受けあい、「知恵とチカラがあう場の風土を促進する」ファシリテーション型リーダーシップを学びました。

今回の研修は、学習と職場での実践とふり返りのサイクルによる学習効果を高めるため、全4回シリーズで開催しました。



新病院の機能を最大限に発揮して、本学の永続的な発展につなげるために、チーム力を高め、多職種が協力し合う風土を作り出すリーダーシップの育成に、今後も継続して取り組んでいきます。

○受講者の感想

- ・「様々な職場・職種の方と受講する研修は新鮮で、他の方の考え、思いを聴くと共感できることや全く考えもしなかったこともあり、とても楽しく問題共有ができました。」(看護職員)
- ・「ともに働くスタッフに、リーダーとして想いを伝え、形にしていくことで、働きたいと思える職場に近づけていきたい。」(看護職員)
- ・「マネジメントの基本はコミュニケーションにあるので、とにかく部下をよく見て、話を聴く耳を持つと思う。また、共感して相手の立場になることの大切さを感じました。」(医療職員)
- ・「指示命令型ではなく、メンバー一人ひとりの役割、知恵、力を借りて、それらを合わせていくリーダーシップを学ぶことができました。」(事務職員)



監査室

平成26年度冬のハラスメント防止活動実施

監査室では、人権週間にちなんで、平成26年12月4日(木)から12月10日(水)にわたり、医学情報センター(図書館)内のAVコーナーにおいて、ハラスメントの防止に向けた啓発活動として、学内各所への啓発用ポスターを掲示するとともに、ハラスメント防止DVDの放映や臨時相談窓口を開設しました。

ハラスメント防止DVDの放映は、今回が初めての試みでしたが、期間中に延べ18名の参加がありました。また、会場には臨時相談窓口も開設されました。

参加者のアンケート結果では、「大変良かった」や「良

かった」が大半で、「これからも、こういった企画を続けてほしい。」や「とても勉強になった。」という意見などがあり、とても好評でした。

期間内での臨時相談窓口への相談は特にありませんでしたが、困った時には一人で悩まず、お持ちの携帯用「啓発カード」に記載された相談窓口専用の電話番号やメールアドレスを利用して、お気軽にご相談ください。

今後とも、「ハラスメントのない明るい職場作り」にご協力をお願いします。

主催公演事業

一般財団法人愛知医科大学愛恵会では、入院・通院患者さんを始め、地域の方々へのサービス事業の一環として、定期的に主催公演事業を開催しています。

第3回主催公演事業

～医大祭とコラボレーション開催～

平成26年11月1日（土）は中央棟1階オアシスホールにおいて、病院ロビーイベントが行われ、全盲の少女が24時間テレビ内で前例のない試みに挑み大きな話題となった立木早絵さんによるピアノの弾き語りがありました。演奏会では、自らの貴重な経験や体験談をユーモアも交えてお話頂くとともに、綺麗な歌声がホール内に響きわたり、終了後も拍手が鳴りやまず、アンコールの要望にも快く応えて下さり、たくさんの感動に満ちた、充実した時間となりました。

「体験教室」では、アロマによるハンドマッサージ、初めての人のヨガ教室、絵手紙教室、プリザーブドフラワー教室、お茶の美味しい淹れ方教室が開催され、どの教室も子供から大人まで多くの参加者で賑わい、いずれも定員を上回る好評ぶりでした。

また、「展示会」では、長久手絵手紙ボランティアの会により、中央棟2階と3階の展示コーナーにたくさんの作品が寄せられ、“あたたかさ・やさしさつなぐ絵手紙”に多くの方が足を止め見入っておられました。

11月2日（日）は、東海ラジオ「かにタク言ったもん勝ち」でお馴染のタクマさんによるマジックイリュージョンショーが行われ、MCで培われた軽快な名古屋弁を駆使したトークが加わって、笑いあり、驚きありと元氣いっぱい会場となりました。

外来レストラン（シトラス）では、コンサートグループ「花の詩」によるサクソカルテットの重量感あふれる演奏があり、続いて村中亮彦さんのトーク&コンサートが行われ、参加者はコーヒーなどを飲みながら心温まる楽しいひと時を過ごされました。

第4回主催公演事業

～新春講演会～

平成27年1月9日（金）大学本館たちばなホールにおいて、マラソンランナーでタレントの谷川真理さんによる「忍耐はくるしいけれどもその実は甘い」と題した「新春講演会」が行われました。

マラソンと挑戦の人生に感銘を受ける中、美しい走りの実演には、“素敵”と声援が飛び交いました。

公演終了後には、一緒に写真を撮りたいという参加者の要望に応えるなど終始実のある講演会となりました。



立木さんによる演奏会



体験教室



マジックイリュージョンショー



講演される谷川氏



献血ご協力ありがとうございました

平成27年1月19日（月）医心館1階ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方々にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

今回は、平成27年7月頃に予定していますので、ご協力よろしくお願ひします。

冬の団体献血

・ 献血受付数	・ 32名
・ 献血できた方	・ 30名
	(400ml・26名)
・ 献血できなかった方	・ 2名

本学に関する新聞掲載記事（概要）をご紹介します。

<紙上診察室 手のひらの汗がひどい>

皮膚科学講座 大嶋雄一郎 講師

15歳の娘の手の汗がひどく、紙がぬれたり、ピアノの鍵盤に汗が落ちたり、夏は皮膚がめくれたりします。どうしたらいいですか。（女性・45歳）

手のひらは精神的に緊張したり、興奮したりすると汗が出ます。緊張や興奮に関係なく多量の発汗がある状態は、手掌多汗症が考えられます。

重症になると手のひらがいつも湿り、指先が冷たく、紫色調を帯びることもあります。国内には約493万人の患者さんがおり、半数近くが生活に支障をきたす症状があるといわれています。原因は解明されていません。

治療法は汗が出ないように塩化アルミニウム溶液を手のひらに塗ったり、水に手のひらを浸して弱い電流を流したりする方法があります。十分な効果が得られなければ、発汗の刺激が通る胸部の交感神経を手術で遮断する方法もありますが、症例ごとに十分な検討が必要です。また、保険は適用されませんが、発汗を抑えるA型ボツリヌス毒素の注射もあります。

患者さんには「体質だから」と治療を諦めている人や、恥ずかしくて受診をためらう人も少なくありません。日常生活にも困るような症状であれば、迷わず、皮膚科の専門医に相談してください。

（平成26年11月4日（火） 中日新聞朝刊掲載）

「中日新聞社許諾済」

<愛知医科大学のドクターヘリ

時速200キロ救命の切り札>

「ピリリリリッ」。午後3時26分、愛知医科大学病院（長久手市）で患者をみていた看護師大和田幸男さんのPHSが鳴った。ドクターヘリの出動要請だ。「路上で4、50代の男性が倒れている。意識不明」

注射薬や治療用具が詰め込まれた青いバッグを担ぎ、中庭へ走る。白地に赤いラインが入った機体に医師と看護師、パイロットと整備士の4人が搭乗。プロペラが回り、すさまじい音をたてながら、出動要請から3分足らずで飛び立った。

指肢切断や広範囲熱傷、急性中毒、意識障害など一刻を争う重症患者のもとに時速200キロで駆け付ける。患者の搬送ではなく、迅速な初期治療によって現場での容体安定を目的とする救命救急の切り札だ。

県内で唯一、ドクターヘリを導入している同病院は半径70キロを活動範囲とし、県全域を25分以内でカバー。計20人のフライトチームのうち、その日の当番の医師と看護師が1人ずつ乗り込む。昨年度の出動件数は343件で、平均するとほぼ1日1回の頻度で出動する。

大和田さんはフライトナースの中でも8年の経験を持つ。迅速で適切な治療が救命率向上や後遺症軽減につながる。瞬発力が勝負だ。飛んでいる途中も無線で情報を聞き、あらゆる可能性を考える。「命を救えるか、1分1秒を争う。少しの妥協も許されない」

この日は13分で現場に到着。患者は一命をとりとめ、近くの病院に搬送された。ドクターヘリはスピードだけでなく、搭乗員の使命感によって支えられている。

（平成26年11月24日（月） 中日新聞朝刊掲載）

「中日新聞社許諾済」

＜エボラ患者対応学ぶ

長久手 消防、保健所職員ら＞

西アフリカで感染が広がるエボラ出血熱の患者への対応を学ぶ研修会が長久手市消防本部で開かれ、長久手のほか瀬戸、尾張旭、豊明市、尾三などの各消防本部や保健所の職員ら54人が参加した。

講師は愛知医科大病院の臨床感染症学主任教授の三嶋広繁さんと、看護副部長の加藤由紀子さん。

三嶋さんはエボラ出血熱の症状や感染経路、接触時の注意点を説明し、「医療従事者自身が感染しないようにすることが重要」と強調した。

加藤さんは防護服の着脱を指導。参加者は3人1組となり、防護服の着脱をする実施者と、それを手伝う介助者、指示を送る監督者に役割を分担し、実際に体験した。加藤さんは「防護服の汚染された部分を、地肌や顔に付けないように」などと呼び掛けた。

(平成26年12月25日(木) 中日新聞朝刊掲載)

【中日新聞社許諾済】

学 術 振 興

平成27年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数 (件)	申請金額 (千円)
新学術領域研究 (研究領域提案型) (継続の研究領域・終了研究領域)	5	13,300
基盤研究 (B) 一般	13	97,155
基盤研究 (B) 海外学術調査	1	6,240
基盤研究 (C) 一般	67	128,951
挑戦的萌芽研究	12	25,158
若手研究 (B)	30	55,132
合 計	128	325,936

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



遠山 幸男

学位授与番号 甲第438号

学位授与年月日 平成26年12月11日

論文題目:「Contribution of Plasma Proteins, Albumin and Alpha 1-Acid Glycoprotein, to Pharmacokinetics of a Multi-targeted Receptor Tyrosine Kinase Inhibitor, Sunitinib, in Analbuminemic Rats (無アルブミン血症ラットにおけるマルチターゲット型受容体チロシンキナーゼ阻害剤スニチニブの薬物動態への血漿タンパク質であるアルブミンおよびα1-酸性糖タンパク質の寄与)」



梅村 拓巳

学位授与番号 甲第439号

学位授与年月日 平成27年1月8日

論文題目:「Investigation of the risk factors of anaerobic bacteremia in a case-control study (嫌気性菌血症におけるリスクファクターの探索-ケースコントロール研究)」



横江 徳仁

学位授与番号 乙第368号

学位授与年月日 平成26年11月6日

論文題目:「UGT1A1*28 is associated with greater decrease in serum K⁺ levels following oral intake of procaterol (UGT1A1*28はプロカテロール経口摂取後の血清K値の低下に大きく影響している)」



河村 直彦

学位授与番号 乙第369号

学位授与年月日 平成26年11月20日

論文題目:「Low-dose aspirin-associated upper gastric and duodenal ulcers in Japanese patients with no previous history of peptic ulcers (潰瘍既往のない患者における低用量アスピリン潰瘍の実態)」



清水 祐樹

学位授与番号 乙第370号

学位授与年月日 平成27年1月8日

論文題目:「Sleep-related rhythm in 6 cpm power of electrogastragram during sleep in constipated young women (便秘を主訴とする若年女性の睡眠中の胃電図における6cpmパワーの睡眠関連周期)」

研究助成等採択者

○公益財団法人日本膵臓病研究財団

第22回（平成26年度）膵臓病研究奨励賞

●氏名 伊藤秀明（病理学講座・助教）

研究題目 膵臓癌進展におけるSCL/TAL-1 interrupting locus (STIL) の機能解析：細胞運動性制御を標的とする治療戦略開発のための基盤的研究

助成金額 500,000円

○公益財団法人上原記念生命科学財団

平成26年度研究助成金

●氏名 岡田洋平（内科学講座（神経内科）・准教授（特任））

研究題目 ヒトiPS細胞の造腫瘍性に基づく新しい品質評価法の開発

助成金額 5,000,000円

○公益財団法人冲中記念成人病研究所

平成27年度研究費助成

●氏名 高村祥子（感染・免疫学講座・教授）

研究題目 B細胞性リンパ腫の新規制御機構の解明
助成金額 500,000円

○一般社団法人全国ローヤルゼリー公正取引協議会

平成27年度学術研究助成金

●氏名 松下宏（産婦人科・講師）

研究題目 ローヤルゼリーによる閉経後骨量減少に対する抑制効果の研究

助成金額 5,000,000円

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

・第7回中部放射線医療技術学術大会

【開催日】

平成26年11月1日（土）・2日（日）

【会長等】

中村 勝

第7回中部放射線医療技術学術大会

平成26年11月1日（土）・2日（日）名古屋国際会議場において、第7回中部放射線医療技術学術大会が開催され、本院中央放射線部の中村勝副技師長が大会実行委員長を務めました。

本大会は、日本診療放射線技師会、中部7県の診療放射線技師会と日本放射線技術学会中部部会が一体となって共同主催する学術大会であり、診療放射線技師を中心に、養成機関の学生や医療関係者、県民など合わせて1,180名の参加者がありました。

本大会は「すべては未来のために－Breakthrough in Radiation Technology－」をテーマとし、特別講演には、位相強調画像の研究で第一人者である東北大学多元物質

科学研究所の百生敦教授をお招きしました。百生先生は、タルボ・ロー干渉計の技術を応用し、今までにない高画質の画像を作り出す小型のX線装置を開発され、最近マスコミにも「スーパーレントゲン」として取り上げられており、多くの参加者の関心を集めました。

その他、診療放射線技師の未来につながる内容を多く企画し、学術発表としての一般演題は178題に及びました。また、県民を対象とした公開講座は「認知症」をテーマとし、197名の県民の方々にご参加を頂くなど、とても有意義な大会となりました。

本大会の開催にあたり、多くの皆さまからご支援ご協力を賜り、深く感謝を申し上げます。

病理学 (Pathology) ・病理医の役割

病理学講座 教授 池田 洋
教授 佐賀信介

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

医学教育において重要なことは、人々の健康を維持・増進させ、質の高い医療を提供する良医を世に送り出すことである。

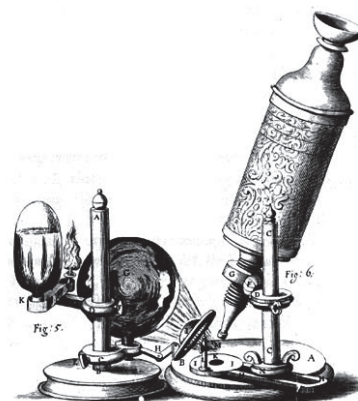
医師不足の問題として、①医療の高度化・専門化に伴い、一人の医師が様々な分野・領域を担当することが困難になってきたこと、②女性医師の増加や家族との両立を希望する医師の増加など医師全体の働き方に対する意識が多様化しつつあること、③休日・夜間の診療を希望する患者の増加や、大病院や専門医への受診を希望する患者の増加など患者の意識も変化しつつあることが挙げられ、医療を取り巻く環境が急速に変化しています。

このような情勢の中、小児科・産科に関わる拠点病院づくりや医療機関相互のネットワークの構築、医師不足の深刻な県にある大学医学部の暫定的な定員増の対策が採られました。実際に、地域枠などが増員され、平成19年までは国立大学は4,165名、公立大学は655名、私立医科大学は、2,880名（合計7,700名）の入学定員が、平成20年から徐々に増員された結果、平成25年の医学部入学者数は9,126名となり、実に1,426名の増員となったのです。これは、100名規模の医科大学が14校設立された状態となります。

これらの入学定員の増加を受けて、本学においてもより質の高い医学教育を目指し、教員に対してFaculty Development (FD) の実施を推進し、医学教育のグローバル化という実現に向け、着実に動き始めております。われわれ病理学講座の教員も世界のニーズに合う教育を目指していきたいと思っております。

病理学を英語で“Pathology”と言いますが、この言葉はもともとギリシャ語で病気に相当する“Pathos”という言葉と学問を意味する“Logos”という言葉から構成されています。この言葉から分かるように、病理学は病気、疾患を対象とする学問であり、病気の成り立ちや原因、経過など、あらゆる疾病の基本的な面を対象としています。そこには、病理学は対象が何であれ、一部でも病気を扱う教育課程においては義務教育課程として位置付けられています。すなわち、いかに病気の応用的な面を一生懸命学ぼうとしても、病理学を習得しない限りは、卒業後も日々の活動の基礎が疎かになり、最終的には職業活動を遂行するのに大きな支障が生じます。

病理学は、医学、歯学、獣医学、薬学、看護学等々幅広い領域の教育課程において必修単位として取り込まれています。



【世界に発信する医学研究】

ヒトゲノム計画と遺伝子解読に関わる技術革新から始まる、この四半世紀の医学・医療はまさに "-omics"の時代となりました。従来形態学的所見に基づいていた悪性腫瘍の病理分類においても、疾患特異的遺伝子変異や転座に基づく再分類が始まっており、「疾患の理」を探求する病理学には、Virchow以来160年にわたり蓄積してきた病理形態学の基盤の上に、現代的な分子生物学的知見を加えた新しい学問体系の構築が求められています。

私どもの研究室では、従来から分子生物学的研究手法を取り入れ、特に胎生期形態形成に重要なHedgehogシグナル系及びHippoシグナル系細胞内情報伝達機構に関わる多くの新規因子と標的遺伝子を同定してきました。更に、これら因子が病理形態的に定義される膵臓癌・乳癌の前癌病変からの進展や細胞増殖・浸潤転移、あるいは癌幹細胞形成に必須であることを明らかにしてきました。今後も、形態学と分子生物学を高度に融合した病因病態の学を指向するとともに、得られた知見を医療の現場に還元すべく"bench to bed side"の研究活動を行っていきます。

教育や研究はもちろん、病理専門医に任された仕事はまだまだあります。2010年資料（国民衛生の動向）で、日本の医師数は280,431名で、その中で病理診断科に所属する医師は1,515名（平均年齢48.1歳）です。大学の基礎医学病理講座に所属し、病理診断業務を行っている病理専門医を合計すると、2015年2月1日現在の病理専門医数は2,276名です。このように少数の医師で日本全国の病理診断業務を担当しているのです。

この診断業務には、大きく分けて二つあります。一つは、患者さんから採取された検体を標本にして診断を行う、いわゆる生検診断です。これには、手術材料や剥離・穿刺細胞の組織学的診断も含まれます。また、手術中に採取された検体で、凍結させて標本化して診断を下す術中凍結迅速診断も行います。例えば、肺に異常な結節性病変が認められるが、癌との確定診断が得られていない場合、その結節を摘出し、直ちに標本化して診断します。癌であれば、肺の切除術に移行しますし、結核とわかれば、肺の切除は行われません。

もう一つの業務として、病理解剖（剖検）があります。亡くなられた患者さんのご遺体を解剖して、その死因、病態の広がり、そして治療効果の判定などを行う仕事です。病理解剖（剖検）が医学の進歩にいかにか貢献したか、また、現在の医学教育において、いかに重要であるかは言うまでもありません。病理解剖（剖検）で得られた情報は、臨床病理検討会において、主治医（ご遺族への報告）、学生に提供され、今後の治療・学生教育に活かされるわけです。病理医は、病気の究明や治療の妥当性について全力を尽くして検索し、わが身を呈して教育・研究の場を提供してくださった患者さんのご遺志に報いるためにも、日々研鑽を積んでいく必要があります。

【講座からの一言】

病理医は、医学教育、病理診断、病理解剖、研究に深く携わる分野にあります。これから、病理専門医（指導医）として、治療方針の決定に欠かすことのできない根幹の分野です。

魅力ある分野であることが、学生の皆さまに理解して頂けたら幸いです。



規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

大学学則の一部改正

愛知医科大学学則の一部が改正され、医学部の入学定員増員及び大学附属施設として災害医療研究センター設置が行われました。

また、この改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日は、入学定員関係は平成27年4月1日、附属施設関係は平成26年11月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学災害医療研究センター規程
- ・愛知医科大学災害医療研究センター運営委員会規程

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学事務組織規程
- ・事務組織の所掌事務細目について
- ・総務部事務分掌について
- ・災害対策専門部会設置内規
- ・学校法人愛知医科大学防災管理規程
- ・愛知医科大学大学院医学研究科の教育・研究上の基本組織等に関する規程
- ・愛知医科大学大学院医学研究科履修規程

学校教育法の一部改正に伴う本学諸規則の整備について

学校教育法の一部改正（平成27年4月1日施行）において教授会の役割の明確化等が行われたことに伴い、これに関連する本学諸規則の見直しが行われ、愛知医科大学学則を始めとする計55件の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成27年4月1日

病院長任用規程の一部改正等

病院長の選考方法の見直しが行われ、次の関係規則が整備されました。

施行日は平成26年10月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院長任用規程

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院長候補者選考規程

【廃止】

- ・愛知医科大学病院長候補者選考規程

医学研究科の教育・研究上の基本組織等に関する規程等の一部改正

愛知医科大学大学院医学研究科の教育・研究上の基本組織等に関する規程及び愛知医科大学大学院医学研究科担当教員資格審査規程の一部が改正され、教育・研究上の基本組織以外の教授を大学院教授とする際の資格審査基準が整備されました。

施行日は平成27年1月1日

学位審査委員会委員の選出に関する規程の制定

愛知医科大学大学院医学研究科における学位審査委員会委員の選出に関する規程が制定され、医学研究科における学位審査委員会委員（主査・副査）の選出方法が定められました。

施行日は平成27年4月1日

「治験及び市販後調査の経費の取扱い」の一部改正

平成26年11月1日付けで「治験及び市販後調査の取扱いについて」（理事長裁定）の一部が改正され、医療機器治験の研究費に係るポイント算出方法が整備されました。

資金運用規程の一部改正

学校法人愛知医科大学資金運用規程の一部が改正され、運用資金の範囲等に係る定義が整理されました。

施行日は平成26年12月15日